

イマヌエル教報

2019. 10

1947年7月1日第三種郵便物認可 2019年10月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.879

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

はじまりは主のことばから

総務局長 寺村 秀嗣



「はじめにことばがあった。」（ヨハネ一章1節）

*

敗戦の年、1945年に創立した私たちの教団は、74回目の創立記念日を迎えようとしています。戦争体験をされた方々が次第に少なくなっていく中、戦争がリアルに感じられない人々が多くなっていくことは、やむを得ないことであり、それだけ平和な時代が続いたことのあかしでありましょう。また、74年の齢を刻んでいない者にとっては戦争体験同様、創立74年はなかなか実感の湧かない数字でもあります。

どのような長い歴史を持った群れでも、はじまりがあります。聖書も世の始まりがあったことを記しています。そのはじまりにあったのは神のことばでした。『イマヌエル二十年史』には、創設者葛田二雄師が当教団の新たな発足に際して、思い巡らしておられたみことばの抜粋があります。

「見よ、わたしは新しいことを行う。」（イザヤ四三章1節）「アブラムは主が告げられたとおりに出ていった」（創世記二二章4節）など、はじまりは主の心から出たことばでした。

74年の厚みを実感できない者も、最初に肩に手を置き、押し出した方は主なる神であり、自分の願いでも力でもなかった経験を持っています。主のことばに召された最初のあのときから、信仰の日々が始まりました。

キリストが天に帰られた後、福音が広がっていくと

迫害が始まります。迫害のあまりの厳しさに傷を受け、望みを失いかけていた人々や、信じることを断念させようとする誘惑により道を踏み外しそうになっていた人々が少なからずいたことでしょう。私たちが経験するさまざまな困難は、始まって間もない教会がすでに経験してきたものです。使徒ヨハネはその時代の教会に向けて書いた福音書を「はじめにことばがあった」と始めます。大丈夫だろうかと不安になる信者たちに向かつて「ことのはじまりは我々の力からではなく、主のことばから、だったではないか」と振り返らせるのです。

ここまでこの群れを見守ってこられた主は、今を生きる私たちにも「はじめにことばがあった」と、そして、「この方によらずにできたものは一つもなかった」と、語られます。私たちが今ゆだねられ、与えられている聖なる教会、互いのきよい交わり、受け入れ合う恵み、復活の希望、永遠のいのちの約束も主のことばから出てきたものです。時が移り、さまざまなものがしぼんでいっても、力のもと主のことばにあります。そうならば、これからの歩みもまた主のことばにより導かれ、支えられて進んでいくことができます。

気落ちしたり、気後れしたり、前のめりになりすぎたり、日々の生活はさまざまな経験の連続ですが、信仰の先輩方がそうしてこられたように、私たちを導く主のことばにともにすがりつつ歩んでいきたいと思えます。

目次

- はじまりは主のことばから……寺村秀嗣……1
- 教団創立記念日、謝恩日献金感謝、中京聖会……2
- 教団運営委員会、ザンビア訪問団、出版事業部……3
- 海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
- とにキャン報告、九州青年大会……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

10月21日は……

教団創立記念日を迎えます イムヌエルの信仰を掲げ 主のみこころを求めて

教団代表 内山 勝

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。」

(ヒレ二・13～14)

*

今月、私たちの群れは創立74周年を迎えます。主が小さな群れをここまで導いてくださったのは、私たちに特別な何かがあったからではなく、むしろ何もなかったからでしょう。私たちは依然として無に等しいものですが、主が私たちに御目を留めて憐れみと愛を示してくださっているのですから、心一杯エベン・エゼルの主に感謝をささげようではありませんか。

もしもイムヌエルの群れが誕生しなければ、私たちお互いの教会は存在せず、その教会に連なる私たちも、ここにはいないことになりそうです。ですから、私たちが、今このようにしてあるのは、すべて主の恵みによるのです。主の憐

れみが尽きなかったからなのです。普段、教団のことをあまり考えない方も、この事実を心に留めていただければ幸いです。

その上で、現在さまざまな課題に直面している私たちは、主がこの群れに何を望んでおられるのかを、真剣に祈り求めるべきではないでしょうか。たとえば、「牧師と信徒の協働」は、掛け声だけで実現するものではありません。草の根的に、必要に目覚めた一人ひとりが、具体的に何かを始めることによつて、前進するものです。今までしていなかったことを始めるのは勇気がいりますし、批判の声も受けるでしょうから、決して容易ではありません。しかし、何も始めなければ、改善を期待することはできないでしょう。

収穫を期待するのなら、種を蒔くべきなのです。種とは小さいものです。こんなものを蒔いて何になるのかと思うほど頼りないものにも見えます。しかし、種にはいのちが宿っています。主が共にいてくださるなら、種は必ず育って行きます。

もちろん、目新しいことをすれば良いというのではありません。これまでして来たことを、もう一度捉え直し、主に期待して、新鮮な思いで働きを継続することにも大きな意味があるでしょう。

創立記念日に際し、私たちに何らかの気づきが与えられ、共に祈り、行動に移すことができますようにと心から祈ります。

厚生委員会／厚生部から

謝恩日聖日献金を ありがとうございました

厚生部長 北田直人

「それは……多くの人が生かされるため」(創世記五〇・20～21)

経済的にも厳しい戦いが続く中、全国の教会で謝恩日献金をお献げいただき、心より感謝いたします。これから団塊の世代の先生方が退任される時期を迎えますので、経済的な必要は今後増える傾向にあります。一方、厚生資金会計の昨年度の運用益は1500万円でしたが、超大国間の貿易摩擦等による世界経済の不安定化により、今年度の運用益は1000万円となる見込みです。

かつて大飢饉のためヤコブ一族は生き延びることが難しい状況に置かれました。神はヨセフを用い、一族が生き延び、アブラハム契約の実現を見ることができるよう、兄たちの悪計を良計とされました。そしてヨセフは大飢饉を前に、食糧備蓄に努めました。

私たちの取り巻く状況は厳しいものがありますが、悪いことを良いことに変えることのできる主を仰ぎつつ、それぞれにできることをさせていただけたらと思います。引き続き、お祈りください。

中京聖会報告

壁を乗り越えるために

テーマ「ブレイク・スルー ～それでも前へ」

四日市教会 山田謙嗣

中京聖会は9月15日(日)、16

日(月)に開かれました。会場は小牧勤労センターです。毎年、各教会は礼拝を終えてから午後の聖会会場へと集います。今年もCOG春日井栄光キリスト教会が参加してくださいました。講師は、この4月にイムヌエル沼津教会の合併先でありましたシオン沼津キリスト教会の牧師・荻野倍弘先生でした。教団を超えて友好関係を深める恵みの時となりました。

聖会のテーマはブレイク・スルー(それでも前へ)です。

【聖会Ⅰ】ヨハネ四章31～38節「目を上げて」①失望した時こそ十字架のキリストを見上げること、②永遠のいのちに希望があること、③私たちは刈入れのために用いようとしてお話ししました。かつての沼津教会は現在「イムヌエルチャペル」として存続し、今も救霊のために用いられているお証しをお聞きました。



聖会ではワークショップバンドによつてテーマ曲の「主の愛に生かされて」が導かれ、みことばに心を向ける備えがなされました。メッセージの後はグループに別れ、分かち合いの時がもたれました。テーマは「乗り越えた壁」「乗り越えたい壁」です。それぞれの証しによつて励ましと慰めが与えられました。

19時からは昨年より始められた「ホリフェス」が開かれます。各教会の代表チームが出場し賛美が捧げられました。

【聖会Ⅱ】使徒の働き八章26～40節「さてそこでそれから」①「さて」と我が身を委ねてから、一歩踏みだすこと、②「そこで」委ねた先には主の用意された出合いがある。③「それから」わたしたちは証人として遣わされる。ポイントでお話ししました。

聖会Ⅰは103名、聖会Ⅱは69名が参加しました。

年会・総会に向けて 集中的な審議の時

広報 大兼久芳規



来年の年会を見据えての教団運営委員会が、9月9～10日に神学院キャンパスのベテルハウスで行われました。

初めに代表から「御霊によって歩む」「御霊による一致」とみことばが開かれ、私たちの群れと教団運営委員会が歩む方向性が語られました。

今回の運営委員会も、この2か月間の教団内の動きを確認し、祈る時を持ちました。まず運営委員会の前夜、千葉県を中心に被害をもたらした台風の状態、そして8月末の佐賀豪雨が報告されました。前週に帰国をされたばかりのザンビア訪問団の報告に、主のみ守りを強く覚えまします。若者中心の訪問団でしたが、多くの信仰の学びがあったことと思います。

【出版局】

消費税増税に伴い教報・つばさの定期刊行物が値上げになります。

【国内教会局】

今後3年間の必要と備えを考慮に入れながら各教区、教会の必要

が報告されました。高齢化、兼牧等の必要が増えています。①姉妹教会、グループ教会を構築して支え合う。②ネットを活用して礼拝を同時に共有する。③礼拝時間を聖日の午前限定せず、午後やウィークデーに礼拝を持つ。引退された先生方の協力を仰ぎ、礼拝を継続する。④信仰の近い教団の方々との交わりを大切に、協力関係を模索するなどが挙げられています。大切な枝々の教会を、教区の協力をいただきながら支えていきたいと願います。

【選挙制度】

教団の代表を選出する際に、信徒総会代議員も、積極的に代表選出に関わっていくために信徒総会代議員の方々とともに方策を検討されています。

【教団運営委員会のスリム化】

現在138名の教職の中から14名の教団運営委員が選出されています。しかし10年後には、78名の教職の中から14名の運営委員を選出しなければなりません。約半数から選ぶことに、この人数で運営委員会を維持していくことに困難さを覚えています。

その対策として年齢制限の緩和や教団運営委員のスリム化を考慮中です。スリム化しても地方教会の声が、B Aを通して運営委員会に届く形態を熟慮しています。総会期を4年に戻すことなども含めて、秋の教区会で、ご意見をいただきながら、さらに良き方策を検討していきたく願っています。

ザンビア宣教訪問団

ザンビアトウアルンバ 《感謝》の報告

神戸教会 岩上頼子

去る8月27日(火)から9月5日(木)までの10日間、九教会から10名のメンバーで初のザンビア宣教訪問が許されました。成田・関空・福岡の空港から出発し、香港で合流して現地へ行く旅程でした。福岡は大雨の中、香港は不穏な状況でしたが、特別なみ守を頂きザンビアに到着、富澤・根廻両宣教師の満面の笑みの歓待を受けました。お2人がご奉仕している所は文字通り本当に何も無い場所でした。だからこそ、安心して奉仕のできる、拠点となる宣教師館が必要だったと改めて覚えることにも、インマヌエル教会の祈りと尊い献金によって建築された宣教師館がIGMの良き証しとなっていることに御名を崇めました。

奉仕内容の1つはクリニックの倉庫の備品整理でした。人手不足で手の届かない部分をわずかですが担えたのだと思っています。また、2つの教会の集会に参加、ご奉仕をする機会があり、礼拝が



4～5時間続く、賛美の掛け合いなど、異なる礼拝に圧倒されつつも、こも神の国、同じ主を賛美礼拝できる幸いを覚えました。

ザンビアは2月から全く雨が降らず、乾いた大地が果てしなく続いていましたが、それでも、見学したビクトリア瀑布とサファリは壮大でした。サファリの動物は神々しいほど優雅で美しく神の業をここでも体感。「来て、見よ。主のみわざを。」詩篇四六篇8節で始まった旅は、富澤・根廻宣教師の現地の人たちに注いでおられる愛の姿に、リビングストーン宣教師から脈々と時代、宣教団体、働きを超えて、生きておられる宣教の主の御業を五感で味わう幸いな訪問でした。

帰路、飛行機の遅延というハプニングで香港で10時間待つことになりましたが、背後のお祈りのゆえに、ザンビアアロスになりながら元気で帰国しました。祈禱感謝！

定期刊行物の価格改定

ご理解をお願いします

出版事業部 川村和臣

9月6日、出版事業部の全体部会が行われ、報告や諸課題への検討がなされました。

書籍関係では5月に「祈りのネットワーク2019」を発行。祈りのためにお使いください。

好評をいただいた「聖化——聖徒はつくられていく」が再版されます。一部翻訳を新たにし、表紙や書体も刷新されました。きよめの学びのためにご活用ください。

年末に向けて「こころCafé」が電子書籍化されます。「わが道の光」(仮題)、「新版信徒の心得」が来年度に向けて準備中です。また新改訂2017版の「エマオの道で」も制作予定です。

「つばさ」は編集チームも交代し、時代のニーズに応じた新しいシリーズなどが検討されています。リーフは注文数に応じての割引制度を始める予定です。

消費税が10%となったことに伴い、書籍の割引サービスや定期刊行物の価格など改定が討議されました。詳細は各教会に案内がなされますのでご確認、ご理解ください。なお、今後の出版活動のため皆様のご意見をお寄せください。

国内教会局から

教会建設の務めに
将来と希望の計画

台風や豪雨の直撃によって多くの地域が被災し、また今も不便なおられることが報道されています。神の御助けが豊かにあります。すようお祈り申し上げます。秋の歩みに入り、各地で教会が開催される頃、今秋

は特に私たちの群れの将来について主の御心を探り祈る時を設けて頂いております。具体的には教団組織の形であったり、条例の変更、部局の役割分担と言った事項についての取り組みとなりますが、これらは私たちが直面する様々な課題に対する表面的な「対策」で終わるものでなく、神がこの時代にお建てになられた群

れの本質を見据えながらの取り組みとならなければいけません。そしてこの営みは断じて不毛なものではありません。あのエレミヤの時代にあってさえ「将来と希望を与える」ご計画を神はお持ちでした(エレミヤ二九・11)。謙り悔いる心を慈しまれる神を仰がせて頂きましょう。

(葛田崇志)

■バビロニアのエルサレム征服証
掘発見、聖書の記述裏付けか
エルサレムにある「シオンの山」で発掘作業を行っていた研究チームがこのほど、古代バビロニアによる同市征服の証拠を発見した、と米メディア「CNN」が伝えた。
エルサレム破壊に関する聖書の記述を裏付ける成果とみられる、と報じている。米ノースカロライナ大学の研究チームは今回、灰の堆積物や矢尻、壊れた壺や照明器具などを発掘。しかし最も重要な発見となったのは、房飾りかイヤリングとみられる宝石類。共同責任者を務めるシモン・ギブソン氏は、こうした「上流階級」の痕跡が見つかったのは初めてと言う。紀元前587〜586年に征服される前のエルサレムの豊かさを記した聖書の記述を確認する発見となる。ギブソン氏は声明で「遺物が詰まった灰の堆積層に矢尻、特別な装飾品という組み合わせから、何らかの破壊行為があったことが

うかがえる」としている。発掘された矢尻は「スキタイの矢尻」と呼ばれ、紀元前7〜6世紀の戦跡によく見られるもので、バビロニア人の戦士が使っていたことで知られる。



海外トピックス

エルサレム征服は新バビロニア王国の国王ネブカドネザル二世が主導し、多くの命が失われたと考えられている。旧約聖書「列王記第二」で記されたソロモンの神殿の破壊にもつながっている。

■中国政府が海外系教会に新たな取り締まり
中国共産党が、韓国や米国系など30以上の教会を弾圧、排除する計画を立てていたことが明らかになった。「中国における信教の自由の迫害と人権に関する」メディア「ピュー・ウインター」が、今年に入って、中国共産党中央統一戦線工作部(統戦部)と國務院公安部が「外国のキリスト教浸透に抵抗する作業データベース」を共同で採択して以降、全土の『省政府』は中国で活動する海外の宗教団体の取り締まりを強化してきたと伝えている。標的にされた教会の一覧が掲載され、また、弾圧運動を実施する必要がある新たな地域が記されている。文書は、習近平国家主席の発言を引用、「決して海外の宗教勢力を我が国に根づかせてはならない。決して宗教分野での反共産党及び反政府勢力の形成を許してはならない」と規定している。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば

改訂版の発行

聖化

聖徒はつくられていく

ホリス・アボット著
竿代照夫訳
インマヌエル出版事業部発行
定価一、六〇〇円

30年前発行の本書は、聖化のテキストとして広く用いられて来ましたが、絶版となつてしばらく経ち再販が待たれていました。この度、原書の改訂版に基づき、装いを新たに再販されましたことは大きな感謝です。

著者ホリス・アボット博士はワールド・ゴスペル・ミッション(WGM)のインド宣教師として南インド聖書学校で教鞭を取り、また、マドラス(チェンナイ)教会で牧会されました。その後WGM総理を10年務められました。その間、日本にもたびたびお出で

ださり、インマヌエル二十周年記念聖会での講演その他の奉仕をされました。また教団顧問の立場でご助言をくださいました。私事で恐縮ですが、私たちがケニア宣教師として赴任した初年度、アボット博士ご夫妻は引退後のボランティアとしてケニアに来られ、同じ町で協働させて頂きました。その温かい人柄に「きよめを生きる」モデルを見せていただいた思いです。

本書は、アボット博士が宣教師会合や神学校などで話された講義のまとめです。アボット博士ご自身、聖化の転機を強調する教会で育ち、その感化を感謝しつつも、その実践においては色々悩まれました。そうした悩みを赤裸々に告白し、聖書的なバランスの必要を淡々と述べておられるところが、本書の魅力の一つであると思います。聖書教義に踏み込んで聖化を深く捉えているという点で、素晴らしい聖化テキストの一つです。初版から、表現方法についていくつか改訂が加えられていること、また新たな章が加えられていることがこの改訂版の特徴です。初版に続いて改訂版も私が翻訳を担当致しました。初版で「きこえない」と感じたところは直しました。また、聖書の引用は「聖書新訳2017」に改めました。初版を愛読された方にも、また、入手機会の無かった方にも、本書を心から推薦申し上げます。

(竿代照夫)



第12回「とにキャン」開催

「Get Over 翼を使え!」

充実の4日間でした 一歩踏み出しました

木更津教会 宮崎聖輝

8月13日(火)～16日(金)、長野県聖山高原チャペルにて第12回中高生キャンプ「とにキャン」が開催されました。台風接近により天候が危ぶまれましたが、プログラムも滞りなく実施され、行き帰りの交通も支えられました。

キャンパーとスタッフの総勢は138名(内キャンパーは69名)で、一部スタッフは食堂外で、食事をとらなければならぬ程の盛況ぶりでした。ここ数年、とにキャン卒業生が奉仕者としてキャンプを支えてくれます。良き世代交代が成されつつあります。

今年のテーマは「ゲットオーバー・翼を使え」です。「問題や課題を乗り越える」という意味があります。それぞれが信仰の翼をひろげ、問題や課題を主に委ねて、自立した信仰者として成長していくことの想いが込められています。講師の安藤理恵子先生(玉川聖学院院長)は、このテーマに添って5回にわたり語ってくださいま



した。安藤先生は、言いにくいことも、はっきりと語ってくださいました。中高生たちもそのメッセージを受けとめ、応えていました。1日目は、ウェルカムタイムから始まり、アイス・ブレイクの時間を持ちます。その後、食事の時間です。今年も毎食、バランスのとれたおいしい食事が整いました。夜はゴスペルタイムです。安藤先生を通して、ヨハネ一五章1～6節が開かれ「つながってゲットオーバー」と題してみることが取り次がれました。主とつながることの大切さ、小さな実がつけば、あとは主が成長させくださる。小さな罪もそのままにせず、告白して十字架を仰ぐことの大切さが語られました。

2日目は「恋愛、結婚、性」をテーマに特別レクチャーが開かれました。男子は田辺寿雄師、女子は安藤理恵子師が担当してくださいました。その後、グループ対抗のゲーム大会が繰り広げられます。毎年、趣向をこらしたゲームで盛り上がりがあります。ゴスペルタイムⅡは、「ようこんでゲットオーバー」と題してヨハネ一五章7～13節が開かれました。



3日目の午前は分科会です。信仰の建て上げとなるよい機会です。そして夜はいよいよキャンプファイヤーです。「友としてゲットオーバー」と題してヨハネ一五章14～16節が開かれました。

第6回 九州青年大会

クリスチャンって自由? 不自由?

9月15日(日)～16日(月)



久留米教会 吉村和記

「青年期に聞いてもらっていて本当に良かったなあ」と思う内容のメッセージが語られた青年大会でした。九州で行われるようになって今年で6回目。講師はKG九州教区主事の松尾献氏でした。友人でもある先生とは打合せから熱いトークが広がり、当日を楽しみに迎えました。期待どおり、否、期待以上の2日間でした。

■松尾氏の説教の特徴
①自身の体験を分かち合うことを通して、みことばを伝える。参加者の何人もの青年たちから聞いた感想は「共感出来た」でした。社会人、学生から構成された43名の参加者の中で、特に学生たちの「オモシロイ!」との彼らの言葉は決して軽い感想ではなく、がちりと心を捕らえられたものだといふには感じ取れたのです。

②凝縮された言葉の宝が山ほどある。文章化されて、あとで読み返せればと思う内容でした。特に、今回の目玉は二日目午前の講演「聖書が教える恋愛・結婚」でしたが、「録音されていないのですか?」と複数の青年たちから聞かれました。(しつかり録音して良かったです。笑)

③聖書を、等身大の自分に近づかせる説き明かし方。青年たちの身近にある言葉、それは遠く距離を感じさせるものでなく、彼らによくわかる表現と適用に満ちたダイレクトなメッセージでした。

■今回の大会テーマ
「GU(キリストにある自由を着こなそう)」がテーマでしたが、「神さまを信じているから不自由なのではなく、中途半端に信じているから不自由なのです」とのひと言は、私だけでなく、青年たちの心にも響いたことが最後のシェアタイムでわかりました。

神さまを心に据える生き方こそが自由だと語られた講師の清々しさが青年たちにも伝染していったような恵みの大会で感謝でした。



巻頭言

選びの民をきよめるために



世界宣教局長
梅田 登志枝



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

「キリストは、私たちをすべての不法から贖いだし、良いわざに熱心な選びの民をご自分のものとしてきよめるため、私たちのためにご自分を献げられたのです」
(テトス二章14節)

教団創立記念の月を迎えました。創設から74年が経過し、当初の頃を知る方々はすでにおられません。時は過ぎ去り、情勢は大きく変化しました。けれども、私たちには変えてはならない使命があることを心に留める必要があるでしょう。1945年秋、葛田二雄初代総理は、新教団創設の挨拶状を関係者に送付されました。その翌年1月2日から3日には、教団発足祈禱会が開かれました。その際に開かれたのが冒頭の聖句です。このみことばには三つのことが記されています。

◇キリストによる贖いの御業
主イエス・キリストは、私たちをすべての不法から救い出すために贖いの御業を完成してくださいました。キリストの性質と御業の

完全性、これを曲げずに、いつの時代にも伝える必要があります。この点を弱めるところに異端の特徴があると言えるでしょう。

◇キリストは信仰者をきよめるために十字架にかかれた

これまでも、ホーリネスを否定する様々な神学的な説が生れました。けれども私たちは、聖書の教える「きよめ」がどのようなものであるかを追い求め、宣証していく使命があります。国内における教会建設も宣教地における働きも、「聖書のきよめ」を土台にしていることを忘れてはなりません。

◇キリストは信仰者を良いわざに熱心な選びの民とするためにご自分を捧げられた

神学的研究や会議も確かに必要です。けれども教会の主たる使命は、家庭や学校や社会において、実践的な信仰者を生み出し、育成していくことです。

スポーツ選手もスランプの時期を通過することがあります。そんな時は原点に帰ることが重要であると聞きます。神様はヤコブに「立って、ベテルに上り、そこに住みなさい。」(創世記三十五章1節)と語られました。ベテルは、ヤコブが夢の中で天使が上り下りする光景を見た場所であり、最初に神様と出会った場所でもありました。私たちもヤコブのように、教団創設の原点を確認しつつ、国内での伝道教会、宣教地での宣教活動に従事したいものです。



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2019年9月7日

訪問団を迎え、4日に無事リビングストーンからお見送りしました。ヨハネスバークで遅れが出ていると知って、祈っておりましたが、昨日、メンバー全員無事に日本に着かれたことを知り、心からの感謝を主に献けています。

訪問団の受け入れ準備は、最後までぎりぎりでしたが、守られて8月28日に時間通りお迎えすることが出来ました。今、思いますとかなり詰まったスケジュールだったように思われますが、みなさん元気に過ごされたことを感謝しています。クリニックでは、コンテナの整理を皆さんがしてくださって、信じられないくらいきれいなりました。田舎のルボンボ教会では、訪問団を伝統的な迎えを通して歓迎し、訪問団はその歓迎を驚きとともに感動していました。英語もいつもほとんど聞けないのに、一生懸命英語の歌を讃美してください、私たちもトンガ語で賛美すると、とても喜んでください



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2019年9月9日

ました。証しあり、ポエムありと、盛りだくさんのプログラムでした。土曜日でしたがとてもたくさんの方々が参加してくださり、本当に感謝でした。礼拝出席のジェンボ教会でも暖かい歓迎をいただき、感謝なときでした。

今からふり返ると、様々なところが充分でなかったかもしれせん。しかし、全ての事柄を通して、今回は、神様の御業を見せて頂いた思いで、素晴らしい時を過ごさせていただきました。「来て 見よ。主のみわざを。主は恐るべきことをなされた。」(詩篇四六篇8節)のみことばを握って当日に入りましたが、主の御業を見せていただきました。宣教チームを送りだして下さった皆様に改めて心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

新学年度が始まりました。今年は前年度に比べ多い18名の学生たちが新しく加わりました。常喜は

2科目担当することとなり4年生には「ダニエル書・黙示録」、2年生には「聖書解釈」を教えてください。2年生の学生たちに教えるのは初めてで名前と顔を対話しながら覚えていきます。

フィリピンに20年滞在し、北ルソン・ベンゲット州バギオ市にある太平洋神学セミナリー（アッセンブリーオブゴッド）で18年もの間、宣教師として従事されてこられた吉原宣教師ご一家が日本に帰国されることとなりました。セミナリーでは英語やギリシャ語を教え、また遠近にかかわらず地域教会を訪問、奉仕をし、また対外的にも北ルソン日本人会でご活躍されていました。この2年間で、フィリピンで労された3組の日本人宣教師御夫妻が帰国され、少し寂しく感じますが、帰国後もSNSなどでお互いの情報を交換したり、励まし合うことができていることに感謝しております。

次女実和子が Deng 熱に罹りました。我が家では初めての Deng 熱患者で、恭子が一生懸命情報を集め対処に追われました。バギオから帰宅してすぐに発熱、倦怠感を訴え、横になっていました。食欲はあり、また歩けることもあり、私たちは風邪ではないかと思っていました。3日後に隣のお家の先生から Deng 熱かもしれないから検査してはどうかというアドバイスをいただき、早速、病院で血液検査を受けたところ陽性で、 Deng 熱と診断され、入院を勧められ

ました。とりあえず準備のために帰宅。その後、主治医との連絡で実和子の状態（食欲、歩ける）から入院はせず、自宅療養することとなり、とにかく脱水症状にならないように気をつけていました。Deng 熱には治療法がなく、深刻な場合は入院し、脱水を避けるために点滴を受け、あとは自然治癒（免疫力）で回復するしかありません。実和子は幸い免疫力が強かったのか回復が早く、検査の2日後には熱が下がり、3日後には回復の兆しとなる赤い発疹が身体に現れ、翌日の検査では血小板数値が平均値以下となりましたが、その翌日にはその数値が上がり、後は回復の一途を辿りました。峠を越えた後、いろいろな方々（経験者）から体力回復するまで大変なことだということを伺っていましたが、その言葉とは裏腹に、本人はすぐに元気に学校に通いだし、好きなダンスをしだしていました。SNSを通して、たくさんの方々から励ましと慰めの言葉をいただきました。また日本の教会の皆様にも祈っていただきました。

次女が Deng 熱の渦中にありましたので、今回も、常喜一人が高速バスを乗り継いでマカティにあるマニラ日本語キリスト教会で説教の奉仕をしました。第一列王記一九章から『山の上で主の前に立つ』と題し、私たちに休息を与えられる神は、私たちに次に踏み出す一歩をも期待しておられることを語らせていただきました。■



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2019年9月9日

この夏も猛烈な暑さに見舞われましたが、台湾では、その暑さも例年並みということで、台風襲来による被害も限定的でした。一時帰省や出張など、日本に入内りされた愛児姉方が口々に「暑さはほとんど変わらないけれど、台湾の方が過ごしやすい。台湾は自然の暑さで、日本の暑さは、あれは本当に大変です。」との言葉がとても印象的でした。日本全国がまるで熱帯になったかのように、高温多湿、ゲリラ豪雨、台風の度重なる襲来襲撃、台湾の夏をほうふつとさせる様子を呈しており、気候帯の大きな変化を痛感します。先月報告誌面がありませんでしたので、夏の歩みを振り返りつつ、ダイジェスト版でお届けします。

呉ハレルヤ会の方々台湾の諸教会の福祉活動に関する研修と施設見学で来台され、台中にまで足を伸ばしてくださいました。礼拝では、呉教会の内山忠信師がみことばを、里村姉が証しをしてくださいました。場所は違っても、同じ主に仕える恵みを覚えました。夏期は、メンバーの多くが不在となりますが、この数年、他教会の兄弟姉が継続来会されています。日本語を通して福音に触れ、キリスト教や聖書に関心を持ち、現地の教会に導かれて信仰を持たれるケースも生まれています。

今夏も、日本の諸教会の尊い祈りとご支援、世界宣教師局の理解とサポートを受け、子どもたちがとにキャンに出席する機会が与えられました。ことしで3回目となりますが、昨年以上に、教会のみんなが祈って送り出す形となりました。一年ぶりの同年代の信仰の仲間との交わり、みことばのチャレンジと主の愛、恵みに触れる時と場所、それぞれに新しい信仰の決断をした2人が、行く前とは違う面持ちで戻り、恵みの分かち合いをしてくださいました。

9月に入り、新会堂に移った当初からの提案であった「会堂の有効利用のための語らいの時」がもたれました。台風接近で1週繰り下げられたこともあったが、多くの愛児姉方が時を買い占め、礼拝に集い、語らいの時には、伝道・宣教の働きのために、もつとこの教会の存在を多くの人に知らせること、そのために何をし、自分自身は何ができるか、積極的な、自発的な、とてもユニークなアイデアが出されました。神さまが一人ひとりを愛し、豊かに用いようとして下さっています。■

寒い日が続いていますが、最近近所で枝切りがあり、スワヒリ語の先生からも差し入れがあつて、授業中暖炉に火を入れられるようになり、感謝です。

スワヒリ語の授業は締めくくりに迎えています。最近、今までの復習として、字の無い絵本やセリフの無い漫画のような語学学習のための本を見ながらの会話作成や、病院にいる事を設定とした会話文の作成をしたりしています。

現職知事が病気で亡くなられ、お祈りいただいていたボメットの治安ですが、現在も守られており感謝です。後任は副官だった方が正式に引き継がれたとのこと。昨今はユーチューブでご葬儀の様子や速報が見られることですが、政治の世界で良い証しをたててこられた器であること、また大統領も出席された葬儀の中でご主人の弔辞にも自然に信仰のことが述べられており、うらやましいような気のすることです。B o m e t、



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2019年9月8日

Governor等のキーワードで検索できると思います。

来週の授業最終日の後、勤務復帰予定です。数週間、ボメット地域で病院関係のストライキがあり、より忙しくなっていると聞きました。その時は「そろそろ解決の兆しが」ということでしたが、解決していることを願っております。

巡回に使用するつもりで日本に発送した船便が今年7月に日本に届きました。お祈り感謝致します。

今月も日本からの小包が届き感謝です。船便で4月発送とあったので、「4か月位で届いたのなら、船便も正常化してきたのかな」と思いましたが、よく見たら2018年の4月発送でした。1年4か月ほどかかって届いたことになりました。ただ、昨年の間に数か月間で届いていたのなら、まだ私は日本にいたので、いつも「ちようど良い時」に届くなあ、と感謝したことでした。昨今の船便は1年くらいかかると思つて到着の報告をお待ちいただけましたら感謝です。

先日、買い出し目的で1泊2日のナイロビ行きを致しました。急ぎ頼まれた手術室のための買い物などなんとか済ませた翌日の帰路、山道で前方に事故があったようで大渋滞となりました。幸い、状況を察知したドライバーの方が早めに引き返して裏道をとってくださったので無事に帰ることができました。久しぶりの悪路で少々緊張しましたが、守られて感謝でした。■



CAMBODIA

カンボジア

蔦田緑乃*2019年8月30日

「その人は水のほとりに植えられた木、暑さがきても、日照りの年にも心配なく実を結ぶことを止めない。」(エレミヤ記一七・8)

猛暑日本は35度前後のある日、テレビ電話でヴァンディ師と近況報告のひと時。カンボジアは平均29度で凄じやい日々です。日本は異常ですね。祈っております。との御励ましに(29度で凄じやい爽やかな日々?)と思いながら、とにかく自然界は終りに向かっている状況の中に主のご再臨の間近きを否定できない今日この頃です。6月には思いがけず体調を崩して大切な弾圧記念聖会での証人としての責任に穴を開けそうになりましたが、主の奇跡的な癒しをいただき、無事に責任を全うさせていただき、主は生きていませりとまたしても御名を崇めました。

一方、カンボジアの働きにもサタンの激しい攻撃を受けており、できればすぐに飛んでゆきたいと思いましたが、「静まりて我の神

たるをしれ」との御言を心に、信じて祈り続けることをご訓練頂いております。問題の一つはヴァンディ師の奥様、テス師が働く大学が土・日の出勤を要求してきた事で、お二人は主の御心を第一、と

生活費は主から頂くことを聖書の基準として生きる信仰をもって、9月いっぱいであるその大学を退く決断をしました。然し「僕たちは平安です。ご心配なく!」との信仰的姿勢に御名を崇めました。神様は一方の扉を閉じられる時、もう一方の扉を開かれると信じ、新しいお仕事を与えられるまで祈りつつ待ち望むご一家の生活費が満たされ続けますよう、お祈り頂けましたら感謝です。もう一つがアンコールワットの教会の働きをされている牧師がKCCのルールに反する経済的問題を興し、彼の弱さがサタンの火矢の的にされたのではないかと祈られる動きを見せました。ちょうど米国からマーク宣教師、比国からグレッグ宣教師が戻ってこられたので、3人で彼と話し合うために5時間前後の距離を運転して訪れ、話し合っております。伝道者の霊的一致が聖霊により保たれ、主の御体なる教会が確かな岩の上に建て上げられるために御祈りを継続して頂けましたら幸いです。主許し給わば私も10月下旬に比国でのセラピストによる検査面会を終えて帰国されるヴァンディ師ご一家を待つて11月に赴任を予定しております。

■会計報告8月分

宣教師金 一、〇六〇、四五一円
月平均 一、九二九、三六六円

お祈りの課題

香港(鹿島)

◆9月からの礼拝が現地の教会を借りて捧げられるようになりました。その感謝と現地の教会との良い交流のため

◆国慶節(10月1日)後の香港の政治的安定のため

◆牧師夫妻の健康と出入りのため
台湾(平瀬)

◆台中教会と台南日本語礼拝を通して、福音が届きますように

◆会堂を有効利用し、教会の存在を多くの人に知らせるための働きが祝されますように

◆子どもたちの将来の導きのため(明里は来春の大学進学に向け、勝大は中三・二期です)

◆極東アジアの複雑な国際情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定を見るように。(来年1月、総統選挙)

ケニア(蔦田就子)

◆3か月のスワヒリ語の学びが守られた感謝

◆来週復帰予定の院内の勤務が祝されるように

◆テヌウェク病院の働き人(ルカ一〇章2節)特に麻酔科と検査室、整形外科医の必要が満たされるように

ザンビア(根廻)

◆宣教師訪問団が本当に多くの恵みがあつた感謝

◆日本への巡回帰国の準備のため
◆シエンボミッションのため
ザンビア(富澤)

◆訪問団が守られ、無事、日本に帰国したことへの感謝

◆クリニックが支えられ主の栄光が現せられるように

◆健康が支えられるように
カンボジア(蔦田緑乃)

◆シエムリアップ地区の教会の牧師の霊的開眼と心を新たにされ、伝道者間の真の霊的一致が硬くされますように

◆9月いっぱいまで現職を退職するテス夫人の新しい職場が備えられて、ヴァンディ師御一家の生活費が枯渇しないように

◆11月に予定されている蔦田の健康が強められるように
フィリピン(豊田)

◆新学期が始まった学生たちが誘惑、攻撃から守られ訓練と学びに励むことができるように

◆神学教育の働きのために。常喜は2科目(「タニエル書・黙示録」「聖書解釈」)を教えています

◆事故、事件、けが、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのため

グローバル・ユース・ミニストリー(蔦田康毅・由理)

◆キャンプを終えて困難な地域に帰国された方々のため

◆10月から始まる中国語親子プログラムのため

◆教会設立の準備、また時期などに確かな主の導きが与えられるように

聖宣神学院報



Immanuel
Bible
Training
College

恵みを受ける一杯の水

院長 ● 河村 從彦

「この小さい者たちの一人に」
(マタイ一〇・42)

話題の目線は「小さい者」(42節)、遣わされる弟子たちは、人から見れば弱い、小さい者でした。

ところで、用いられるというと、教会の中心で奉仕する者が、他の方に恵みを届ける管になるというイメージで考えます。しかし神の国には、違うイメージもあります。弱い者が用いられる！ 神さまは、水一杯を差し出すような、小さな一コマに目をとめておられるというのです。しかも、差し出した側も共に恵みを受ける、ですから逆転現象が起きます。教師は学生か

ら教えられ、大人は青年から教えられ、親は子どもから教えられ、先輩は後輩から教えられ、牧師は信徒から教えられます。

手前ごとで恐縮ですが、現場に出てすぐに行き詰まりました。伝えるべきメッセージはこれだなどと正論を張ったところで信徒の方々からご信頼いただけません。きれいな事はダメでした。そこで信徒の方々を批判してもどうにもならず、どこに持つて行くこともできないまま、思いました。「自分の何が足りなかったのだろう」

信徒の方々を、血の通った人間として感じる感性が欠如していたのだと思います。わかったことは、信徒からご信頼いただけなければ、牧師は一ミリも仕事ができないということでした。まず自分から信徒の方々を信頼しなければ、自分が信徒から信頼される可能性はないこと。教えるというスタンスがそもそも間違っていたこと。信頼いただくことは人が生み出せるものではなく、失敗・挫折を通してイエスさまに出会ったオリジナルな何かが必要だということ。教えられただけのやり方や神学ではダメだということでした。

人の上に立つ必要も人に命令する必要もなく、ただ信徒の方々からご信頼いただける「小さい者」でありたいと思います。満足にできているはずありません。しかし、水一杯を差し出すことで自分も恵みを受ける逆転の発想は、経験的に知っていたと思います。



神学院に実りの秋がやってきました！

神学エッセー

ディボーションと分かち合い

①聖書が語り始める経験



内山 勝

私が牧会してきたいくつかの教会で実践してきた「ディボーションと分かち合い」を、3回にわたって紹介させていただきます。

* 聖書は神のことばであり、私たちの心と生活における唯一の規範です。それだけでなく、私たちに生きる力をもたらしという意味で、聖書は神のことばです。

聖書を通読することは、小学生の頃から親に教えられ、5年生の時に旧約聖書を読破しました。けれども、文語訳だったこともあり、良く理解できなかったことを覚えていて、そんな訳で、私の生活において、聖書は生きる力にはなりませんでした。

ところが、18歳の時に、聖書のみことばをそれ自身が、私に語りかけて来るということを初めて体験しました。自分の願うようにならない人生に嫌気がさし、神さまに反発をしていた私に、聖書のみことばが突然私に迫ってきて離れないのです。「あなたはわたしを

愛しますか」というヨハネ二一章のみことばでした。牧師の説教中ではありません。自分で聖書を通読している時でもありません。何となくパラパラと聖書をめくっていた時、特定の聖句が目に入り、私の心に迫ってきたのです。まさに、イエスさまご自身が、私に語りかけてくださっているような感覚でした。

私はその時イエスさまにお会いしたのです。その結果、私の人生は全く変えられました。イエスさまに喜んでついていく人生が始まったのです。

聖書が語りかけて来る！

この日を境に、聖書は、読むべき難しい書物というよりは、聴くべき慕わしい神の声となりました。

もちろん、聖書から学ぶことは大切ですし、体系的な検討を加えることも必要でしょう。しかし、聖書を通して、神ご自身の声を聴くのが、私たちに与ってかけがえのないほど大切なことであると体験できたらどんなに素晴らしいでしょう。それがディボーションの醍醐味ではないでしょうか。

読むという時、主体は読み手です。一方、聴くという場合、主体は語り手、すなわち神ご自身です。「読む」から「聴く」に変わる時、生ける神ご自身が、聖書のみことばを通して語りかけてくださるのを体験できます。そして、この語りかけこそが、私にとつての避け所、苦しむ時の強き助けとなるのです。

◆前期の学びを振り返って

底なし愛で新たな発見

聴講 大村真実

神さま、そして多くの方々に守られ、支えられながら神学院で学べて感謝です。日々のお祈りと数々のサポートをありがとうございます。

私は、前期の授業を通して十字架の愛つまり神さま・イエスさまの愛の理解がまた少し深まりました。私の今までの十字架理解は、罪の赦しのための犠牲、身代わりであるということが中心でした。このことに追加された十字架理解とは、さらし者となってくださったイエスさまの存在です。神であり、神の愛を一番分かっている方が、わざわざ人となり、神との断絶やご自分がつくられた人々に侮辱され蔑まれることを自ら選んでくださったイエスさまの愛。イエスさまを送り出してくださった神さまの愛。

私は今まで、赦された存在であることは分かっているけれど自分は神に受け入れられているのかと自信がなく悩み続けてきました。しかし、自ら神さまとの断絶、人に嫌われて憎まれる経験をしてくださったイエスさまが「一緒に

あなたの苦しみを負うから」と両手を広げて待っていてくださることに気が付くことができ心が軽くなりました。

現在は学びを生活に適應しています。日々生きていけば失敗や悩みが起こってきます。その時、さらし者になってくださったイエスさまの十字架を見上げるように意識しています。すぐに、失敗や悩みに取り込まれてしまうからです。今までの思考回路を新しくすることは簡単なことではありませんが、心からいつでもどんな時でもイエスさまを見続けることが出来る者に一秒でも早くなりたいと祈り願っています。苦しい時も沢山ですがイエスさまがいればこわくないと大きな声で言えるような経験を沢山積んでいきたいです。

◆インターン実習の中で

夢が広がる庭

修了者コース 中尾敬一

武蔵村山教会でのインターンは折り返し地点にきています。いつもお祈りいただきありがとうございます。横田基地に隣接する場所ですが、心配していたほど騒音はなく、穏やかに過ごしています。

教会には3坪程の三角形の庭があります。ある姉妹が管理を担当

してくださっています。年々植え加えられ、風にのって野草もやってきて、とてもにぎやかでした。奥の方には踏み入れないほどのある日、庭の土を仕切っているブロックが、すこし崩れていることに気付きました。また全体を見渡しながら、「この状態で、遠方にお住まいの姉妹に庭の管理をお願いするのは本当に申し訳ない」と思いました。次の聖日に姉妹の許可をいただいて、庭を整理させていただくことになりました。さて、ブロックを少し押し整えようと思いました。ところが意外と深く埋まっており、びくともしませんでした。仕方ない。周りの土をすこし掘ろう。すると出てきたのは、びっしり絡まっているあらゆる種類の根っこ。そして切り株。黙々と奉仕してくださっていた姉妹に、何と申し訳ないことをしたか。と深まる心苦しさを。きれいに咲いているものを大きなプランタに移



神学院の駐車場側から本館を望む

して玄関先に置き、土ふるいを買ってきて、全面をきれいにすることにしました。事務仕事の合間に少しずつ。雨で予定を狂わせられながら、着工して数ヶ月にして終わりが見えてきました。

夢が広がる庭になってほしい。これもまた、きっと牧師の働きだろうと思うのです。エデンの園は、新しい種が植えられるのを待っている、夢が広がる土地だったかもしれない。これは私の想像です。第二子が与えられました。「優真」(第三版、ピリピ1・10)と名付けました。

◆前期の学びを振り返って

主は道を造られる

聴講 矢代ゆう

「見よ。わたしは新しい事をす。今、もうそれが起ころうとしている。……確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。」(イザヤ四三章19節)

学院の朝いつものように教室に入ると白杖が硬いものに触れました。手を伸ばすとそれは扇風機。夫が六台もあるよと教えてくれました。前の週の授業で、冷房足が麻痺してしまった私のために先生がご配慮をもって用意してくださったのです。

麻痺は脳脊髄液が足りず脳の下垂で神経が引っ張られるため起こります。ですからほとんど横になって聴講させて頂いています。何をすることも人と同じようにはできない私です。

気候にも学びにも毎週行き詰まり、そのたびに障がい当事者の本を読み(聴き)漁り、音声認識でメールをし、電話をかけました。北海道から九州まで、ハンディと共に教会生活を送る先輩方に、生活の工夫や人間関係の作り方を教わります。また難病ゆえに教会に行きづらい方々と、どうしたら良いかを語り合います。主のご臨在と皆様に支えられていることを感じます。

今年の前期で学んだこと。教会演習。信徒も牧師も悩み、主と共に悩んでくださるから大いに悩めばよいということ。

聖書読解法。遠回りが近道であるということ。私の場合、ひとつ聖句を探すにしても、書簡のはじめから聖書を聴き続けなければなりません。時間はかかりませんが、文脈を重視するならそれで良かったのだと励まされました。

そしてキリスト論では、この身体を生きる意味と価値をいただきました。キリストが肉体をとられたのだから、私もこの痛む身体を生きていこうと思わされたのです。行き詰まりは学びのチャンス。多様な私たちが共に礼拝できるように、弱さを賜ったのだと感謝しています。

私の神学生時代 祈りに支えられて 19期生 ●古波津保寿



「されど汝は學びて確信したる所に常に居れ。」Ⅱテモテニ・14

中三の秋に信仰に導かれてまもなく、教会に行くことを大反対した父に、将来牧師になりたいと言ったことがあります。すると父は烈火のごとく怒り、殴りつけ「貴様、牧師になって生活できと思っているのか」と言われました。

それからまたたび反対を受けましたが、高三の秋について勘当同然の身となり、その時から数か月、COG川崎教会の創立者、R・シェルホン師の家で居候生活が始まりました。その時に明確な召命を頂き、大学進学も委ね、献身の道に進むことになりました。

高校を卒業して臨んだBTCでの入学試験を今でも懐かしく思い出します。IGMならだれもが知っておられるのでしょうか、他教団の私にはなんのことと思うような出題がありました。「ヨトモール」についての出題でした。

入学を許され、入寮する前の日、シェルホン師は「坊主になって神学校へ行きなさい」と言われ、初めて坊主になり、少し気恥ずかし

思いで入寮したのを覚えております。しかしそれよりもBTCに受け入れられ、聖書を学ぶ楽しさを諸先生から教えられたことが今でも忘れられません。まさに私の牧師としての原点は神学院時代のご訓練と学びにあります。

新生生であった私は自分のことを注意してくれる先輩を見つけないと思いましたが、それはすぐに訪れました。私が窓の棧を拭き終わった後、指でチェックをし、注意してくださった先輩が「現れ」しました。今もその先輩を思うと、深い尊敬を覚えます。もちろん叱られて落ち込むこともありましたが、今は楽しい思い出です。

卒業後、先輩の先生が「古波津君、君は途中で脱落するんじゃないかと心配していたが、よくがんばったね」と仰ってくださいました。男子の中で最後の最後までベニアミンであった私が守られたのは、教授の先生方、先輩方のお祈りの故だと深く感謝しております。

初代院長はよく召命を吟味するように、きよめの歩みを吟味するように指導してくださいましたが、それは今も牧師としての私の支えとなっています。しばしば牧会者として様々な問題に突き当たりますが、結局、その度にこと問われるのは、私自身の召命ときよめの問題だからです。

最後にBTCは私たち夫婦、長男夫婦、そして次男夫婦の母校であることに言い尽くしがたい光栄と感謝を覚えております。

同窓生の近況

45期生

単立みどり野教会 ●西村希望



とにキャンの会場として、聖山高原チャペルを用いてくださり感謝しています。

9月8日、第二子(長男)が与えられました。父の名前(内弘)から、内基(ガラテヤ二・20)と名付けました。元気に成長できるようにお祈りください。

4年前に主任牧師としての任命をうけ、新たなスタートを切っています。2017年には、新しい会堂が与えられ、今年の夏にすべての工事が終わり、11月に献堂式を予定しています。教会のビジョンである、次世代への伝道とリーダー育成を具体化するために始めたチャーチスクールも19年目を迎え、プレススクールから高校生までが元気に学び、成長しています。

献身者を育てるコースも用意され、主の働きの養成に奮闘中です。12年前に与えられた聖山高原チャペル(長野県)では、ぶつとびキャンプを開催し、ここ数年は全国から子どもたちが集められています。感謝は与えられているビジョン(マタイ九・35・38)に教会一同、前進していることです。

収穫の畑に働き人を

図書館 新垣重夫

図書館で奉仕をしている関係で、今の神学院の状況についていろいろ考えています。なぜこんな寂しい神学院になったのだろうか。

この状況は御心なのだろうか。すると、エレミヤのことが思い出されました。樂觀的なのは別の預言者たちで、エレミヤは現状そのものについては悲観的でした。

このことは何も神学院だけの問題ではありません。教会の状況も同じです。献身者の出どころは教会です。図書館では祈りの時が持たれています。天の父は私たちに悔い改めの時を与えてくださるでしょう。そして新たな突破口を与えてくださるでしょう。

先日、主が幻を見せてくださいました。収穫の畑に多くの働き人が押し寄せてきているのです。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。8月の会計報告をさせていただきます。

8月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥671,200
教会団体による「神学院献金」
¥414,682
合計¥1,085,882
その他の献金(一時・特別)
¥101,668

・振替: 00230-0-10138

●神学院祈り会は8日(火)です。

●本館屋根の補修は、塔部分の工事が始まりました。

●10月は集中講義2講座、公開講座、オープン・キャンパスなど、特別なプログラムが続きます。

●12日(土)の公開講座は、関西聖書神学校の鎌野直人先生がレビ記から聖化について講演をしてください。ぜひご参加ください。

●オープン・キャンパスは神学生による自主企画・運営です。ご参加をお待ちしています。

神学院スタッフ…恵みの想起

学苑だより



公報

本部通達

「キリストによって、…愛のうちに建てられることになります。」

(エペソ四章16節)

豪雨と台風の深刻な被害を経験した先月でした。まだ傷の癒えない地域、教会を覚えて祈りましょう。多くの困難を越えて成長させてくださる主の愛を信じ、互いに祈り合い仕えていきましょう。

■本部

10月21日(月)は、74回目の教団創立記念日を迎えます。

IGM所属の全教会は、この創立記念日を覚えて「教団創立記念礼拝」を行い、礼拝時に感謝献金を実施します。主にあるご協力をよろしくお願いいたします。

〈会議〉

10月1日(火) 拡大財務委員会 (予算編成方針)

■国内教会局

◇10・11月に行われる聖会

◇北関東聖会

10月13日(日)～14日(月)

講師・田中進師／会場・ヌエック

◇静岡聖会 10月14日(月)

講師・梅田登志枝師

会場・静岡労政会館

◇北陸聖会 10月14日(月)

会場・金沢教会

講師・岩上祝仁師

◇沖縄聖会

11月3日(日)～4日(月)

講師・朝比奈悦也師
会場・那覇教会

◇10月に行われる教区会

9月30日(月)～10月1日(火)

南九州教区会

7日(月)～8日(火)

四国教区会

14日(月) 中京教区会

15日(火) 近畿教区会

21日(月) 北関東、沖縄教区会

21日(月)～22日(火) 中国教区会

28日(月)～29日(火)

北九州教区会

◇JHA関係

10月20日(日)～22日(火)

関東聖化大会

講師・ヒューバート・ハリマン師

会場・インマヌエル中目黒教会

10月24日(木) 東海聖化大会

講師・ヒューバート・ハリマン師

会場・CBI(キリスト聖書神学校)

10月25日(金) ジョン・ウエスレーに学ぶ会

講師・ヒューバート・ハリマン師

会場・ナザレン大阪桃谷教会

10月27日(日) 岡山聖化大会

講師・ヒューバート・ハリマン師

会場・日本イエス香登教会

10月29日(火) 九州聖化大会

講師・ヒューバート・ハリマン師

会場・基督兄弟団福岡教会

◇世界宣教局

▽9月24日(火)に局運営委員会

並びに局員会を、宣教地はネット

を通じて参加して、開催しました。

▽11月17日(日)は宣教聖日です。

例年のように今月末に宣教ビデオ

を教会にお届けいたします。また

「宣教コイン献金」にもご協力をお願いいたします。

▽宣教師巡回予定(申し込みは葛田敬子師まで)

*根廻恵子宣教師(ザンビア)

19年11月～20年6月2週。

*豊田常喜、恭子宣教師(フィリ

ピン) 20年5月～8月初め。

▽葛田康毅宣教師はOMF委員と

して9月14日～20日までマレーシ

アでの国際会議に出席しました。

〈IWF関係〉

▽IWF基金は、申請すれば、I

WFの宣教師を教会に招くための

支援、また教会堂の修理や改築費

用の融資のために用いることができ

ます。お問い合わせは委員の梅

田登志枝師まで。

▽元WGM総理のヒューバート・

ハリマン師はJHA聖化大会のため

来日されます。

■聖宣神学院

▽秋の入学審査発表

石川牧子師(東京フリー・メン

ジスト桜ヶ丘教会出身、聴講)が

合格されました。お祈りください。

▽聖宣神学院公開講座のご案内

10月12日(土) 午前10時～12時

会場はお茶の水OCC、講師は関

西聖書神学校校長の鎌野直人先生、

テーマは「聖と普通、けがれとき

よさ」レビ記再考」です。牧師も

信徒もぜひご参加ください。

▽オープン・キャンパスのご案内

10月18日(金) 午後～19日(土)

昼。体験授業は葛田崇志先生、院

長が担当。これからでも申込可能。

▽10月の集中講義

9日(水)～11日(金)

旧約釈義(鎌野直人先生)

23日(水)～25日(金)

説教1(内山勝先生)

▽信徒土曜講座秋学期の申込は今

からでも可能です。

テーマ「教会学校について考

える」(岩上祝仁先生、内山勝先生、

戸塚雅昭先生) 10月5日開講・4

回コース

▽後期の教会実習は10月6日(日)

開始。受入れ教会に感謝致します。

▽BTCリトリートご案内

12月29日(日) 夜～31日(火)

午前。夜の聖会は内山勝先生。聖

会是一般公開です。

▽神学院祈り会は8日(火)、奨

励は田中進先生です。

▽後援会からのお知らせ

・中部ブロック(静岡・中京・北

越教区) 世話人会(午前は信徒地

区講座) 11月16日(土) 10時30分

～16時30分、会場は名古屋教会。

■教育局

〈会議〉

1日(火) 教会学校課会議

5日(土) YSB実行委員会

10日(木) 生涯学習課会議

21日(月) 教育局運営委員会

信徒教育課会議

〈信徒伝道者養成課程スクーリン

グ〉8日(火)～9日(水)

(会場) 神学院ホテルハウス

(講師) 北田直人師

(内容) 「牧会」(受洗まで、受洗

後のケア) 夜・聖会、「説教演習」

河村師、川嶋師

〈YSBリトリート2019〉

(日程) 11月3日(日)～4日(月)
(会場) 神学院ホテルハウス
(テーマ) よろこび「うねばなら
ない」じゃなくて
(講師) 葛田康毅師、吉村和記師

■出版事業部

●定期刊行物価格改定のお知らせ

①教報・現行 100円(税込)

・改定後 110円(税込)

②つばさ・現行 200円(税込)

・改定後 220円(税込)

実施は2020年1月号からと

なります。書籍の販売価格も改訂

されます。またリーフについては割

引制度を設けます。詳しくは各教

会へ送付された案内文書で。

消息
報告

▽先月上旬の台風により茨城県、千葉県、神奈川県等の諸教会、信徒宅が被害を受けました。詳細は災害対策委員会から各教会へ送られた報告をご覧ください。復旧のためにお祈りいたします。

▽内山フジ子師(呉教会)のお母様、東海林秀子師が9月19日、87年の地上生涯を終えて召天されました。ご遺族に天父のお慰めをお祈りください。

▽長崎教会は当初予定の、カトリックセンターではなく、教会から徒歩1分の工務店倉庫で集会をしています。9月5日に棟上げが終わり、建設が進んでいます。

教報PDFパスワード＝6805